令和７年４月２４日

鶏肉の需給予測について

１　生産量

生産量の予測は、ブロイラー、成鶏、地鶏について、最近の生産量の傾向をもとに過去の月別生産量の実績及び鶏ひなふ化羽数を考慮して算出している。

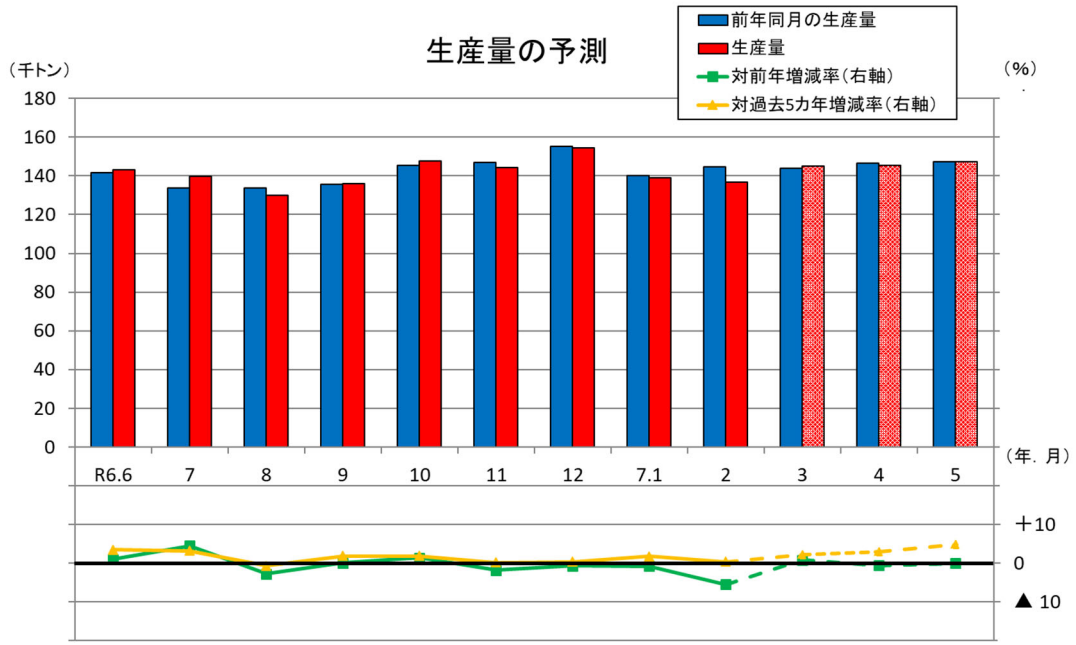
この結果、

○生産量は、鶏肉生産量の９割以上を占めるブロイラーの生産動向が大きく影響し、４月はわずかに下回り、５月は前年同月並みと予測する。３カ月平均（３～５月）では、前年同期並みと予測する。

（千トン）

	生産量
令和7 年　3 月　（見込み）	145.0　（100.8%）
4 月　（予測）	145.6　（ 99.4%）
5 月　（予測）	147.2　（100.0%）
3～5 月　平均	145.9　（100.1%）

注：（　）は前年同期比、以下全ての表において同じ。



注：網掛け、点線部分は予測値

２　輸入量

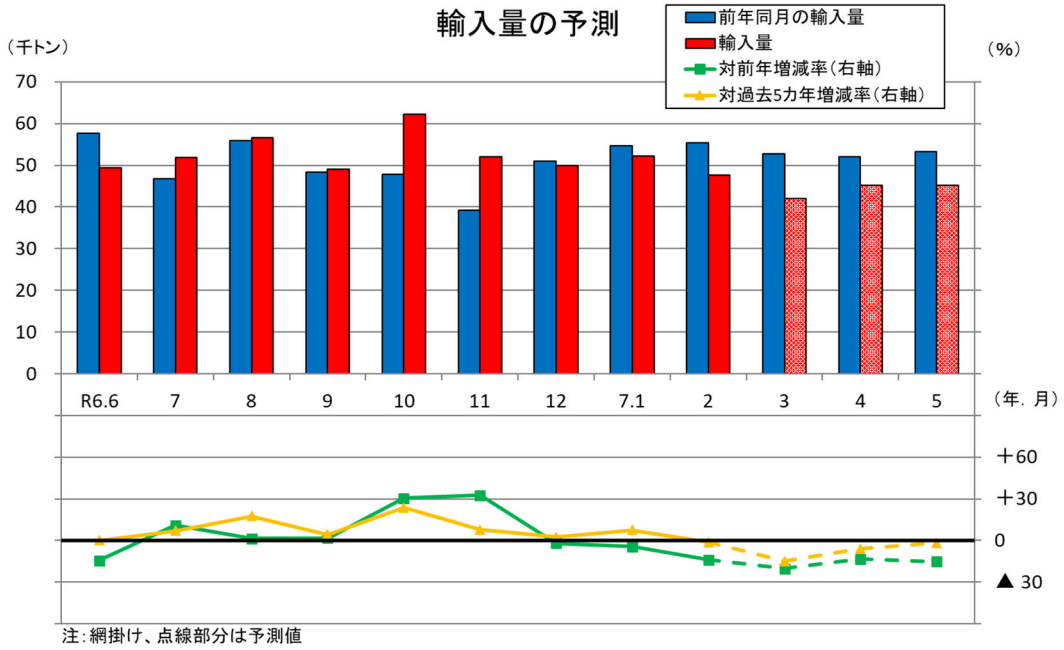
輸入量の予測は、国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会における輸入数量の検討結果を予測値としている。

この結果、

○輸入量は、４月、５月ともにブラジル産現地価格が高止まりしていることなどを受けて、輸入量の減少が見込まれること等から、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお、３カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

（千トン）

	輸入量
令和7年　3月　（見込み）	42.1　（ 79.9%）
4月　（予測）	45.1　（ 86.7%）
5月　（予測）	45.1　（ 84.7%）
3～5月　平均	44.1　（ 83.8%）



3　出回り量・期末在庫

出回り量及び期末在庫の予測は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫及び前述の生産量、輸入量をもとに、時系列解析の手法により算出している。

この結果、

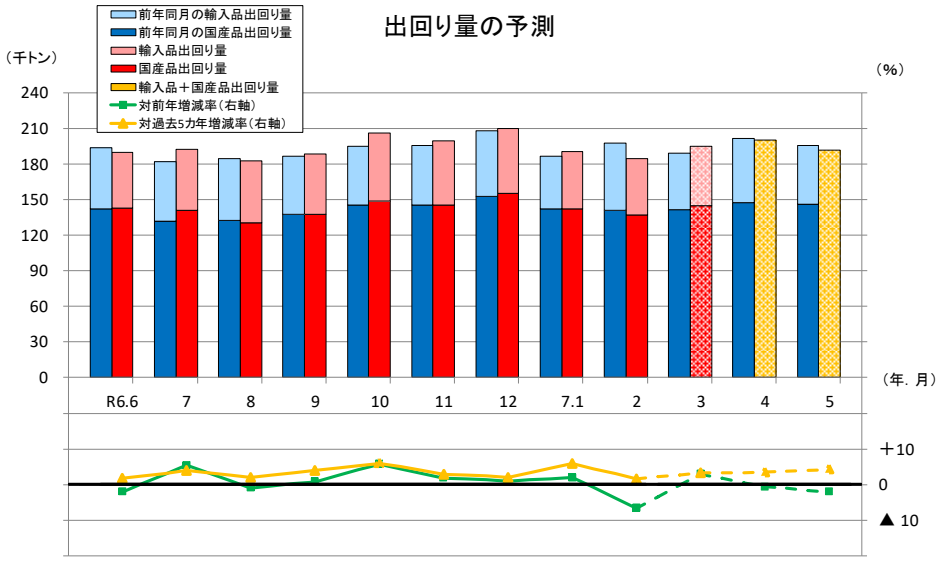
○出回り量は、４月、５月ともに前年同月をわずかに下回ると予測する。

○期末在庫は、４月はかなりの程度、５月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回ると予測する。

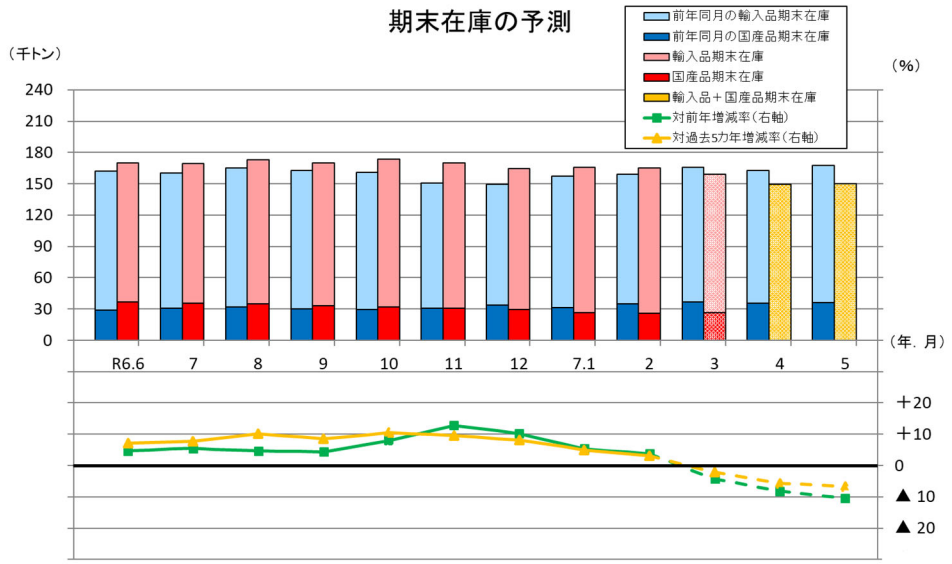
なお、過去５カ年の同月平均との比較でも、４月、５月いずれもかなりの程度下回る（４月：６.８％減、５月：７.８％減）と予測する。

（千トン）

	出回り量			期末在庫		
		うち輸入品	うち国産品		うち輸入品	うち国産品
令和7年3月（見込み）	195.0（102.9%）	50.1（104.9%）	145.0（102.2%）	157.0（94.6%）	131.2（101.7%）	25.8（ 69.9%）
4月（予測）	200.4（ 99.3%）			147.3（ 90.6%）		
5月（予測）	191.7（ 97.9%）			148.0（ 88.4%）		



注：網掛け、点線部分は予測値



注：網掛け、点線部分は予測値

＜予測手法＞

○　生産量は、ブロイラーについては一般社団法人日本食鳥協会の集計結果、成鶏及び地鶏については機構が実施している国産鶏肉生産量等調査事業の調査結果を用いて算出した最近の生産量の傾向、過去の月別生産量の実績及び一般社団法人日本種鶏孵卵協会が算出している鶏ひなふ化羽数を考慮して予測。なお、必要に応じ、気候条件や家畜疾病の発生等を考慮し、補正を行う。

○　輸入量は、日本食肉輸出入協会の実施している国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会による輸入数量の検討結果。

○　出回り量は、過去の月別出回り量等の実績値をもとに、ARIMA モデル（時系列解析の手法の一つ。令和６年４月からは更新モデルを使用）を用いて予測。

○　期末在庫は、期首在庫に、上記手法で算出した当該月の生産量及び輸入量を加え、出回り量を控除して算出。なお、当月予測の期首在庫は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出している。また、食肉等保管状況調査の調査対象倉庫は、毎年度見直している。

お問合せ先
独立行政法人農畜産業振興機構
畜産振興部　畜産流通課
山﨑、越川
TEL 03-3583-9469
FAX 03-3583-8714